



2019年4月26日

各位

上場会社名 株式会社アサカ理研
 代表者 代表取締役社長 山田 慶太
 (コード番号 5724)
 問合せ先責任者 取締役執行役員管理本部長
 佐久間 良一
 (TEL 024-944-4744)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2018年11月9日に公表した2019年9月期第2四半期(累計)及び通期の連結業績予想を修正しましたので、お知らせいたします。

1. 2019年9月期 第2四半期(累計) 連結業績予想数値の修正

(2018年10月1日～2019年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,253	83	79	44	17.22
今回修正予想(B)	4,900	132	134	95	37.21
増減額(B-A)	647	49	55	51	
増減率(%)	15.2	59.0	69.6	115.9	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2018年9月期第2四半期)	4,576	238	250	191	75.00

2. 2019年9月期 通期連結業績予想数値の修正 (2018年10月1日～2019年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,743	248	236	180	70.45
今回修正予想(B)	10,010	107	104	57	22.33
増減額(B-A)	1,267	△141	△132	△123	
増減率(%)	14.5	△56.9	△55.9	△68.3	
(ご参考)前期実績 (2018年9月期)	8,765	337	333	234	91.98

3. 修正の理由

(1) 2019年9月期 第2四半期(累計)連結業績予想

売上高は、主力の貴金属事業において主要な取引先である電子部品・デバイス工業分野の生産減少の影響を受け、同分野からの貴金属取扱量とレアメタルの販売量は予想を下回りました。一方、他の分野からの貴金属取扱量は増加し、貴金属・銅の価格が予想を上回ったことから当初予想を上回る見込みです。

利益面では、貴金属・銅の価格が予想を上回ったほか、製造工程の自動化等の生産効率改善や、電子部品・デバイス工業分野の生産減少の影響が長期化すると見越して経費の削減を実施したことにより、当初予想を上回る見込みとなりました。

(2) 2019年9月期 通期連結業績予想

売上高は、貴金属事業において、高品位貴金属の売買取引が増加すること、ならびに貴金属相場が上期に引き続き高い水準で推移しており、当初予想を上回る見込みです。

利益面では、当初予想を下回る見込みとなっております。貴金属事業において、電子部品・デバイス工業分野の減産による影響が継続し、さらに一部では生産調整が拡大しております。これにより、同分野からの貴金属取扱量が減少する見込みであること、スマートフォンに使用する高純度酸化タンタルをはじめとするレアメタルの需要も低迷が継続する予想であること、リチウムイオン電池等に使用されるレアメタルのリサイクル及び原料化の研究開発を推進する、などの理由により、下期は経常利益で赤字の見通しです。

以上から、通期連結業績は当初予想から増収・減益となる、売上高10,010百万円(当初予想から14.5%増)、経常利益104百万円(当初予想から55.9%減)に修正しております。

今後の事業環境につきましては、電子部品・デバイス工業分野の減産による影響は、下期まで継続し、翌期以降には回復すると予想しております。レアメタルの需要については、スマートフォンのSAWフィルタに使用される高純度タンタルは、2020年以降の5Gの普及に合わせて回復・増加していくと考えております。また、現在取り組んでいるリチウムイオン電池等に使用されるレアメタルの研究開発は、自動車用途の原料及びリサイクル需要の増加に対応できるよう継続して実施いたします。

なお、2019年9月期配当につきましては、安定配当を継続的に行うことを重要政策と位置付けており、2018年11月9日に公表のとおり1株当たり15円を予定しております。

(注)業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されたものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上